

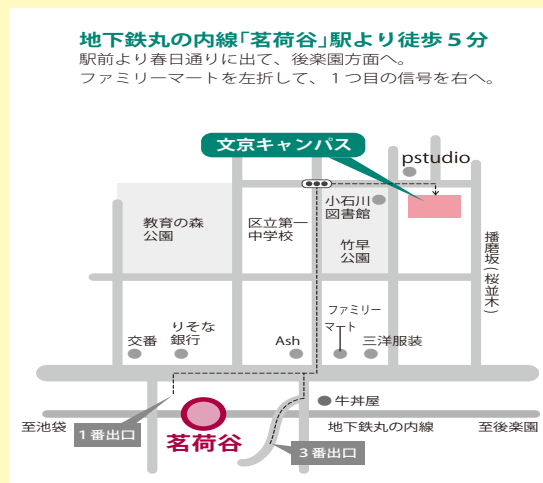
講座会場(対面)

『文京キャンパス』

〒112-0002 東京都文京区小石川 5-10-12

TEL : 03-5689-8181 FAX : 03-5689-8231

東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」下車徒歩5分



Social Welfare Service Management

専門職大学院 リカレント講座 2023

Graduate Schools of
Japan College of Social Work

Graduate School of
Social Welfare Service Management

日本社会事業大学 専門職大学院 大学院教務課

〒204-8555 東京都清瀬市牛丘 3-1-30

【お問い合わせ】 TEL : 042-496-3105

MAIL : inkyoumu@jcs.ac.jp

【お申し込み】 WEB : <https://www.jcs.ac.jp>

FAX : 042-496-3101

社会情勢の変化により、Zoom のみによるオンライン講座になる可能性があります。その場合、受講者は、各自におけるインターネット環境及びノートパソコン等(マイク・カメラ付)が必要となります。また、一部時間変更が伴う場合があります。予めご了承ください。

リカレント講座とは

このリカレント講座は、日本社会事業大学専門職大学院が今まで培ってきた教育・研究のノウハウを活かし、社会福祉従事者の実践力を高めることを目的とした講座です。新しい手法や時宜になかった実践事例、基本的なスキルの振り返りなど、現場実践者のニーズに応え、現場実践に役立つような講座を準備いたしました。ぜひ、多くの方々に受講していただき、実践力向上の一助となれば幸いです。

- R1** 暴言・暴力を用いない子育ての普及を考える
- R2** 依存症回復支援とセルフヘルプ（相互支援）グループの役割
- R3** 居住支援とつながりづくり
～やどかりサポート鹿児島の取り組みに学ぶ～
- R4** 自分らしく最期まで生きるために
～映画「いのちの停車場」から考える～
- R5** 在宅療養支援の方法
- R6** 発達障害の理解と支援
- R7** スクールソーシャルワーク
- R8** 認知症ケアの基礎理論
- R9** 居住福祉
- R10** 共生社会の仕組みとデザイン

※R1～R3は、ハイブリッド講座（対面又はオンライン）となります

※R4は、対面のみとなります

※専門職大学院授業と合同
R5～R10は、オンライン講座のみの受付となります

リカレント講座受講申込票

Fax :042-496-3101

※R4は対面講座のみ、R5～R10はオンライン講座のみとなります。

(□にチェックをお願いします。)

個人申込 法人・会社申込 (名参加)

※申込が複数の法人等の方は、全員の参加者の名前を記入してください。	ふりがな		申込講座番号	希望する受講形態 (どちらかに○) R1～R3をお申し込みの場合
	氏名			対面・オンライン
	ふりがな		申込講座番号	希望する受講形態 (どちらかに○) R1～R3をお申し込みの場合
	氏名			対面・オンライン
	ふりがな		申込講座番号	希望する受講形態 (どちらかに○) R1～R3をお申し込みの場合
	氏名			対面・オンライン
勤務先名			職種	
ご送付先		自宅・勤務先 (どちらかに○)		
		〒		
		TEL: _____	FAX: _____	
		E-mail: _____		

【受講形態変更時の意向】 R1～R3をお申し込みの場合のみ

- 受講形態が変更しても受講したい
 対面受講を希望している講座が
 オンライン受講のみになった場合、受講を取り消したい

【アンケートにご協力ください】

- ① 本学との関係
 一般 指定法人
 本学卒業生 (学部 研究大学院 専門職大学院 通信教育科)
 社会事業学校卒業生
- ② お持ちの資格は？
 社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士 介護支援専門員
 保育士 看護師 保健師 その他 ()
- ③ 当リカレントの講座をどこで知りになりましたか？
 本学ホームページ
 パンフレット (本学からの郵便 学内での配布 教員からの配布)
 新聞 雑誌 その他 ()

個人情報の取り扱いについて

日本社会事業大学専門職大学院リカレント講座では、収集した個人情報を申込受付、パンフレットまたは本学が開催する同様のイベント案内の送付、講座運営およびこれに関わる連絡等のために利用させていただく場合があります。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用がないよう、必要かつ適切な管理を行います。

(切り取り線)

注意事項

《講座の変更》

内容・スケジュール等が、若干変更になる場合がございます。対面を予定している講座は、社会情勢の変化により、Zoom のみのオンライン講座になる可能性があります。オンラインによる受講者は、各自におけるインターネット環境及びノートパソコン等（マイク・カメラ付）が必要となります。また、一部時間変更が伴う場合があります。予めご了承ください。

《講座の変更》

受講生が一定人数に満たないとき、講座を中止する場合があります。（中止決定は、講座開始日の**7～10日前**に行います。また講師の緊急の都合などにより、中止、延期、時間短縮、講師の代講となることがあります。）講座が中止になった場合は、受講料を返金いたします。

《休講・補講》

講師の都合や気象状況等により、やむをえず休講とする場合、原則として補講を行います。

また、突発事故等により、開始時間より 30 分経過しても講義ができない場合は休講とし、後日補講を行います。なお、休補講の情報は、原則ホームページ※にてお知らせしますので、受講の前に各自ご確認くださいませようお願いいたします。

〔※休講情報アドレス〕

<https://www.jcsw.ac.jp/faculty/s-daigakuin/recurrent/kyuko.html>

QR コードはこちら→



《受講キャンセル》

講座開始日の 8 日前までにご連絡をいただいた場合、お振り込みいただいた受講料は手数料を控除し返金いたします。それ以降にキャンセルされた場合は、返金できません。ご了承ください。

《その他》

- ① 専門職大学院の授業を一部公開している講座の場合は、本学学生も一緒に講義を受けます。
- ② 講座で使用するテキスト代が、別途かかる場合がございます。
- ③ 駐車スペースがございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
- ④ 申込者以外の方への変更は一切できません。
- ⑤ 障がい等のために特別な配慮を必要とする方は、必ず申込み前にご相談ください。

申込方法

《申込先》

WEB <https://www.jcsw.ac.jp>

FAX 042-496-3101

受講のお申し込みは、本学 HP の参加申込フォームまたは FAX とし、定員になり次第締め切らせていただきます。なお、電話でのお申し込みは受け付けておりません。

《ホームページからの申込み》

- ① 本学 HP の申込フォームよりお申し込み下さい。
本学通信教育科在学生の方及び同窓会からの申し込みは、別に指定された方法で申込み下さい。
- ② 振込案内、申込内容等がメールで自動返信されます。
(メールが届かない場合は、お手数ですが大学院教務課までご連絡ください)
- ③ 受講料を金融機関よりお振込みください。
- ④ 当日は、振込を証明できるもの(振込明細書等)をお持ちの上、直接会場にお越しください。

《FAX からの申込み》

- ① 申込用紙に必要事項を記入の上、FAX 送信。
- ② 受講確認票及び振込案内を「**郵送**」いたします。
- ③ 受講料を金融機関よりお振込みください。
- ④ 当日は、振込を証明できるもの(振込明細書等)をお持ちの上、直接会場にお越しください。

《振込先》

お近くの銀行・郵便局・コンビニ ATM よりお振込みください。振込手数料は**受講者様負担**とさせていただきます。予めご了承ください。

【銀行】三井住友銀行 清瀬支店

【店番号】849 【口座番号】普通 4474811

【名義】学校法人 日本社会事業大学
(ガッコウホウジン ニホンシャカイジギョウダイガク)

《受講料について》

以下の場合、受講料の返金及び減額はいたしかねます。

- ① 自己都合により途中で中断された場合
- ② 緊急の都合により講師が変更になった場合

R1 暴言・暴力を用いない子育ての普及を考える

※ハイブリッド講座(対面又はオンライン)

企画・進行 須江 泰子 (本学講師)

日時:10月21日(土)
13:30~16:30 / 定員:30名 / 受講料:2,000円

児童福祉法等の一部改正や子ども基本法の成立など、子どもの人権や最善の利益が再認識されています。民法は懲戒権が削除され、体罰や子に有害な影響を及ぼす言動の禁止が明記されました。しかし、保護者を注意喚起するだけでは問題が改善しないこともあり、時に孤軍奮闘している保護者を追い詰めてしまう可能性もあります。

児童虐待対応に造詣の深い児童相談所長をお迎えし、保護者と暴言・暴力を用いない子育てをどのように共有し、普及していくかを考えます。子どもと保護者の支援に従事されている方向けの内容です。

講師 渡邊 直氏
(千葉県中央児童相談所 所長)

【13:30~13:40】

主旨説明(須江 泰子)

【13:40~15:00】

講義:「暴言・暴力を用いない子育ての普及を考える」(渡邊 直氏)

【15:10~16:30】

演習:非暴力コミュニケーションの実際:機中八策

(進行:渡邊 直氏・須江 泰子)

R2 依存症回復支援とセルフヘルプ(相互支援)グループの役割

※ハイブリッド講座(対面又はオンライン)

企画・進行 曾根 直樹 (本学教授)

日時:10月21日(土)13:30~16:30/定員:30名/受講料:2,000円

アルコール、薬物、ギャンブル、買い物などの依存症回復支援にとって、依存症回復当事者によるセルフヘルプ(相互支援)グループの役割は極めて重要です。しかし、依存症回復当事者のセルフヘルプ(相互支援)グループと関わった経験がほとんどない支援者は、医療に結びつけること以外の方策を見いだすことができない現状にあると思います。

本講座では、依存症回復当事者からセルフヘルプ(相互支援)グループの活動の実際をお聞きし、その役割について理解を深めるとともに、各地域にセルフヘルプ(相互支援)グループをつくるために、どのようなことが考えられるか検討したいと思います。

【13:30~15:00】

依存症回復当事者によるセルフヘルプ(相互支援)グループの活動の意義と実際

壁田 英一 氏 (NPO 法人 ステラポラリス代表)

【15:10~16:30】

依存症回復支援にどのように関わることができるか、
依存症回復当事者との意見交換を通じて考える

進行:曾根 直樹

R3 居住支援とつながりづくり ~やどかりサポート鹿兒島の取り組みに学ぶ~

※ハイブリッド講座(対面又はオンライン)

講師 井上 由起子 (本学教授)

日時:12月2日(土)13:30~16:30/定員:30名/受講料:2,000円

居住支援の取り組みが普及してきました。住宅確保、居住継続、支援付き住宅、相談体制。実践現場を訪ねると、そこで展開されているものは個別の支援であると同時に、人々がゆるやかに意思をもって互いを気遣いながら共に生きる姿でもあるようです。単身化が進む社会では、誰もが求めていることなのかもしれません。人とつながりながら生きていくための知恵やふるまい、そして支援のあり方を考える機会とします。

【13:30~13:40】主旨説明

井上 由起子 (本学教授)

【13:40~14:45】話題提供:「当事者主体の居住支援」

芝田 淳氏 (NPO 法人やどかりサポート鹿兒島 理事長)

【15:10~16:30】フロアとの対話:「居住支援の根底にある大事なこと」

進行:井上 由起子

芝田 淳氏

落合 明美氏

(厚生労働省老健局高齢者支援課 高齢者居住福祉専門官)

(13期修了生)

R4 自分らしく最期まで生きるために ~映画「いのちの停車場」から考える~

※対面のみ

講師 鶴岡 浩樹 (本学教授)

日時:12月2日(土)13:30~16:30/定員:30名/受講料:2,000円

在宅医療を舞台とした映画「いのちの停車場」を鑑賞し、自分らしく最期まで生きることをどのように支えればよいか考えていく。映画のキーワードとなっている「命のしまい方」に焦点をあて、同映画プロデューサーの富永理生子氏を交えて、ACPを踏まえたディスカッションを展開したい。司会進行は同映画の医療指導を務めた鶴岡教授が担当する。

【13:30~13:35】イントロダクション

鶴岡 浩樹 (本学教授)

【13:35~15:35】「いのちの停車場」上映会

【15:45~16:15】グループセッション

特別講師:富永理生子氏(映画プロデューサー)
(木下グループ)

鶴岡 浩樹

【16:15~16:30】全体討論会

富永理生子氏

鶴岡 浩樹

R5 在宅療養支援の方法

※オンライン講座

講師 鶴岡 浩樹 (本学教授)

日時:8月31日・9月7・14・21日(木) (※日によって終了時間が異なります。)
19:00~22:00 / 定員:20名 / 受講料:10,000円

多様化、複雑化した在宅医療の現状を把握し、地域包括システムや地域共生社会の実現に向けた思考を養うこと。これらの実現に向けて、最新のケアを知るとともに、多職種多機関連携が重要であることを学ぶ。

[1日目]・なぜ在宅医療が推進されているのか？

- ・在宅医療の実際

[2日目]・在宅医療とナラティブ

- ・障害児者の在宅医療、介護ロボット等の新技術

[3日目]・リハビリテーション

- ・介護保険と医療保険のしくみ、地域社会資源の活用

[4日目]・在宅看取りの支援

- ・地域力を向上させるには

R7 スクールソーシャルワーク

※オンライン講座

講師 土屋 佳子 (本学非常勤講師)

日時:9月28日・10月5・12・19日(木) (※日によって終了時間が異なります。)
19:00~22:00 / 定員:20名 / 受講料:10,000円

学校現場において支援を要する児童の状況を把握し、そのニーズの理解に基づいたアセスメントを適切に行なうことができる。また、演習を通して、児童への支援のあり方や具体的な支援計画の立案・実施方法を体得する。

[1日目]・スクールソーシャルワークの視点 /

スクールソーシャルワーカーの仕事と役割

- ・スクールソーシャルワークの価値・倫理・子ども観

[2日目]・スクールソーシャルワークの展開過程

- ・学校文化の特徴と就学前・学校種別の実践技術

[3日目]・スクールソーシャルワークの実際 /

児童虐待・ヤングケアラー事例をもとに

- ・スクールソーシャルワークの実際 / いじめへの対応

[4日目]・スクールソーシャルワークの実際 / 特別支援教育と合理的配慮

- ・スクールソーシャルワークの実際 /

子どもの貧困へのアクションと居場所づくり

R6 発達障害の理解と支援

※オンライン講座

講師 曾根 直樹 (本学教授)

日時:9月1・8・15・22日(金) (※日によって終了時間が異なります。)
19:00~22:00 / 定員:20名 / 受講料:10,000円

発達障害については、幼児期と学齢期さらには就業期など、様々な年齢において社会的関心が高まっている。本講座では、発達障害とは？という基本的な理解を得るとともに、様々な場面で支援を展開されている方、当事者の方をゲストスピーカーとしてお招きし、発達障害を有する方への支援の実際と方法を学び、現場実践者を通じて社会的認識を拡げ、当事者と支援の将来像を共有することを目指す。さらに、自閉スペクトラム症と知的障害を重複する人が、不適切な支援の二次障害として起きる、いわゆる「強度行動障害」の背景、障害特性に基づく支援について理解を深める。

[1日目]・発達障害とは？その特性

- ・発達障害と医療の役割

[2日目]・発達障害を持つ子どもへの支援

- ・発達障害のある人の家族への支援

[3日目]・発達障害をもつ若者への支援

- ・発達障害の当事者から学ぶ

[4日目]・強度行動障害の理解と支援

R8 認知症ケアの基礎理論

※オンライン講座

講師 宮島 渡 (本学特任教授)

日時:10月26日・11月2・9・16日(木) (※日によって終了時間が異なります。)
19:00~22:00 / 定員:20名 / 受講料:10,000円

これまでの古い文化（オールドカルチャー）によるケアから新しい文化（ニューカルチャー）によるケアに代わるために、組織や個人、地域の認知症観を変えるために必要な知識、技術、価値を習得するために、講義、演習を行う。

[1日目]・認知症ケアの変遷

- ・認知症ケアの制度変遷

[2日目]・認知症の当事者の声から学ぶ

- ・家族支援

[3日目]・認知症ケアを実践する上での心構え

- ・地域生活支援

[4日目]・パーソン・センタード・ケア

(認知症の人を支援する上での理念)

- ・ひもときシートとセンター方式シート

R9

居住福祉

※オンライン講座

講師 井上 由起子 (本学教授)

日時:11月24日・12月1・8・15日(金)19:00~22:00(※日によって
終了時間が異なります。)/定員:20名/受講料:10,000円

世帯の高齢化と単身化、障害者の地域移行、生活困窮者の増加、入所施設の構造的課題、居住の市場化などを背景に、住まいが不安定な人々が増大している。住宅確保要配慮者の居住支援のすすめ方、暮らしを重視した住宅系サービスや施設系サービスの運営管理の方法、地域居住を促進する場と参加の仕組みについて学び、地域共生社会に資する居住の安定化に必要な知識と態度を獲得する。

- 【1日目】・日本の住宅政策と福祉政策の接点
 - ・民間賃貸住宅における居住支援
- 【2日目】・見守りと居住支援
 - ・住宅系サービス(高齢者住宅と支援付住宅)
- 【3日目】・入所系施設①
 - ・入所系施設②
- 【4日目】・地域居住①
 - ・地域居住②

R10

共生社会の仕組みとデザイン

※オンライン講座

講師 曾根直樹(本学教授)・渋谷篤男(本学客員教授)・北川進(本学講師)

日時:1月5日・12・19・26日(金)19:00~22:00(※日によって
終了時間が異なります。)/定員:20名/受講料:10,000円

人口減少、高齢化を背景に、共生社会の実現に向けて、分野別福祉を超えた取り組みが各地域で始まっている。連携の対象は福祉分野を超え、社会教育、雇用、地域コミュニティ再生、文化芸術、住宅都市、農業等一次産業、観光、住民自治のあり方にまで及んでいる。誰よりも支援を必要とする人々を中核に据えつつ、社会変革を通じて福祉的課題の解決を図る。そのために必要な知識に加えて、視点の広さと柔らかな態度を獲得する。

- 【1日目】・共生社会と地域共生社会とは何か
- 【2日目・3日目】・共生社会の実践事例に学ぶ
- 【4日目】・実践事例から考える共生社会、地域共生社会とは何か

(memo)